

八幡相撲

西小笹を歩く

62年ぶりに市内で開催される大相撲匠瑛場所。大相撲の歴史を調べると、現在の年6場所になったのは1958（昭和33）年からで、それ以前の相撲興行はさまざまな移り変わりがあったことが知られます。

40年ほど前、「八幡相撲」について聞いたことがあり、今回はそれを紹介します。



西小笹区にある八幡神社。大正時代ごろまで境内で、奉納相撲が行われていたという

西小笹でいつ頃から始まったかは分かりませんが、次第に盛んになったようで、近郷近在の力自慢が土俵に上るようになり、1830年代には相撲に負けた者の周囲の人たちが屋台店や小屋を壊すなどの乱暴を働いた、との話も伝わっています。

西小笹・八幡神社での相撲の起こりは、同社の本社とする京都・石清水八幡宮で8月15日の祭礼に相撲が奉納されたそう、それに倣ったのでしょう。

八幡相撲とは、大正時代ごろまで西小笹（共興地区）・八幡神社境内で行われていたという奉納相撲のことです。神社境内の石碑などによると、毎年8月15日の講社祭に八幡相撲が行われ、同社には幕末の1852（嘉永5）年10月に、本相撲行司・木村庄之助から西小笹村相撲世話人に宛てた許可書が伝わっています。

そうした混乱もあってか、八幡相撲を当時の江戸相撲の管轄下に置く目的で、本相撲の行司役・木村庄之助が相撲世話人に宛てて許可書を発行したのでしょう。相撲世話人とは、江戸相撲年寄の門弟である地方相撲の指導者のことで、地方興行の主体となったとされ、西小笹村にも存在したことから江戸の力士も招かれたかも知れません。

西小笹・八幡神社は1396（応永3）年にまつられたとされ、社殿が再建された1718（享保3）年ごろから漁民の信仰も集めたよう、信者の集団である講社は、近隣の銚子講社を始め、県内はもとより茨城県などにも及んでいるとされています。

境内に奉納された石碑や天水桶などには東京、大阪や近在の寄進者名が見られ、明治初年の「千葉県神社明細帳」には、氏子数3千人との記載もあります。

大相撲匠瑛場所から、かつての八幡相撲のにぎわいがしのべれます。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

TEL 73・00800